

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

小城市立牛津小学校

今年の4月、6年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。ただ、本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年と限られた学年が対象であり、教科は国語科、算数科・数学科の二教科です。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、そのことをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語科、算数科以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めていきます。

■調査期日

令和5年4月18日（火）

■調査の対象学年

小学校6年生児童

■調査の内容

（1）教科に関する調査

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に関わる内容。

（2）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
（例）国語科、算数科への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国平均・県平均とほぼ同じである。
- ・「知識・理解」の中の「情報の扱い方に関する事項」と「思考・判断・表現」の中の「話すこと・聞くこと」の正答率は全国平均・県平均を大きく上回っている。資料を活用する力、自分の意見と比較して取捨選択する力はもっているため、今後も継続して活動を取り入れていく。
- ・「思考・判断・表現」の中の「読むこと」は、県平均をやや下回っており、要点をとらえたり問いの意味を理解したりするところが課題である。

観点	【分析結果・自校の課題】	【学校での具体的取り組み】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○「グラフやカードから分かることを書く」や「六十字以上百字以内で書く」等の提示された条件に沿った文を書くことができている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、正しく使うことがよくできている。 ○漢字について個人差は感じられるが、ほぼ県平均と同じほど書けている。 ●目的に応じて、文章と図表等を結び付けて考え、その中から必要な情報を見付ける問いがあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○条件作文やテーマを与えた日記の取組等を継続してきたことが結果に表れている。今後も継続していく。 ○繰り返し出てくる語句や似たような意味の語句について、意味を調べたり使ったりする活動を仕組む。 ○自分の考えと照らし合わせながら情報の取捨選択をしていく活動を取り入れていく。 ○今後も「ことばタイム」を継続し「ことばのきまり」などの問題を解いたり、しっかりと読むことに慣れたりして、文章の構造、要旨をとらえる力をつけていく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことの内容をとらえることがよくできている。 ●文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることが県平均を大きく下回っている。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることが県平均より、やや下回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の資料を読み、比較したり関連付けたりする活動を多く仕組んでいく。 ○本校の話し合い活動「つぼみタイム」が効果的に行われている成果が出ている。意見を交流し、多様な考えに触れる活動を継続する。 ○タブレットを活用して、個人の興味・関心に応じた調べ活動等をくり返していく。 ○朝読書を活用し、読書量を増やし、たくさん読む機会を増やすようにする。

【ご家庭では】

- 子どもさんが書いた作文等に目を通してください。感想を話したり、書いてある内容について質問したり、たくさん褒めたり、おうちで話題にして関心を持っていることを伝えてください。
- 音読の時間を大切にしてください。毎日読むことで、すらすらと読めるようになることで自信がつき、読解への意欲も出てきます。登場人物やお話の内容について話し合ったり、新しい言葉の意味や使い方を子どもさんに教えていただいたりして、触れ合いながら学んでほしいと思います。また、図書館祭りで取り入れている「親子読書」も継続して行っていきましょう。

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国平均・県平均より少し低い程度である。
- ・「知識・理解」の中でも「データの活用」は全国平均・県平均を大きく上回っているが、「数と計算」や「図形」は、全国平均・県平均を大きく下回っている。
- ・無回答率が少なく、最後まで集中して取り組んでいることが分かる。
- ・「知識・技能」では同じ領域でも、理解できているものとそうでないものに偏りが見られる。

観点	【分析結果・自校の課題】	【学校での具体的取り組み】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○「データの活用」の中でも「二次元の表から、条件に合う数を読み取ること」や「複数の棒グラフを組み合わせたグラフからの分かること」がよく理解できている。 ○一の位の数が「0」の二位数×二位数の計算が正しくできている。 ●「正方形」の意味や性質についての理解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」や「図形」の領域では、小テスト等で既習の知識・技能を繰り返し活用する場を多く設定し、その力を確実に定着させる。 ○教科書の発展問題や、単元テストの活用問題を丁寧に扱うことを継続していく。 ○数直線や線分図などを使いながら、数量関係を視覚的に捉えさせたり、基準量や比較量を意識させたりする取り組みを継続していく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の棒グラフを見比べてその違いを言葉と数字を用いて記述することがよくできている。 ●9問中2問しか全国平均・県平均を上回っておらず、全体的に「思考・判断・表現」の力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「つぼみタイム」では、立式し計算するだけでなく、求め方と答えを図や言葉などを使い、「なぜそうなるのか」を問う発問を多くし、理由を説明する活動を仕組んでいく。 ○図形の意味や性質については、繰り返し指導し、正しい知識を身に付けさせる必要がある。 ○伴って変化する二つの数量関係の問題は、身近な数量を用いて、生活に密着した問題になるよう工夫していく。

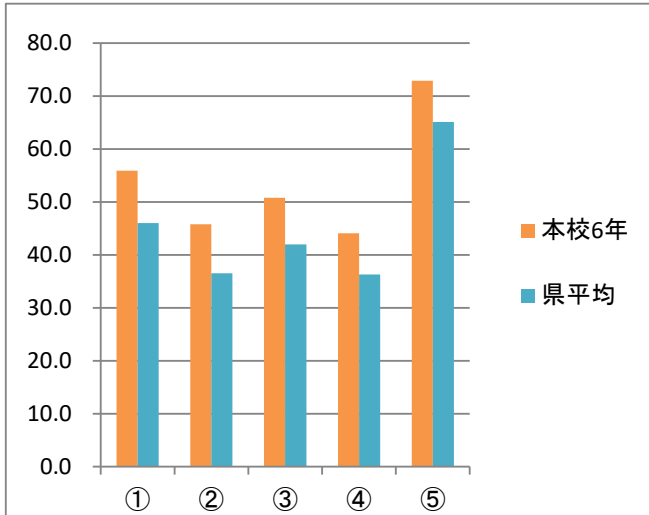
【ご家庭では】

- ドリルやプリント類に目を通していただき、たくさんの称賛や励ましをお願いします。また、間違えた問題や苦手な問題等を自学で挑戦するよう声掛けしてみてください。学校で学習した時に繰り返し取り組み、身に付けることが大切です。
- 算数科で学んだことを生活の中で生かす場を積極的につくっていただき、算数の便利さやおもしろさにたくさん触れさせてください。料理の手伝いの時、材料と一緒に計量したり、車で近道や遠回りして自宅までの距離を測ったり、買い物して代金を予想させたり、身の回りには算数科で学んだことを生かす場面がたくさんあります。

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	(8)人が困っているときは、進んで助けていますか。→「当てはまる」
②	(45)国語の授業の内容はよく分かりますか。→「当てはまる」
③	(53)算数の授業の内容はよく分かりますか。→「当てはまる」
④	(36)学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。→「当てはまる」
⑤	(6)先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。→「当てはまる」

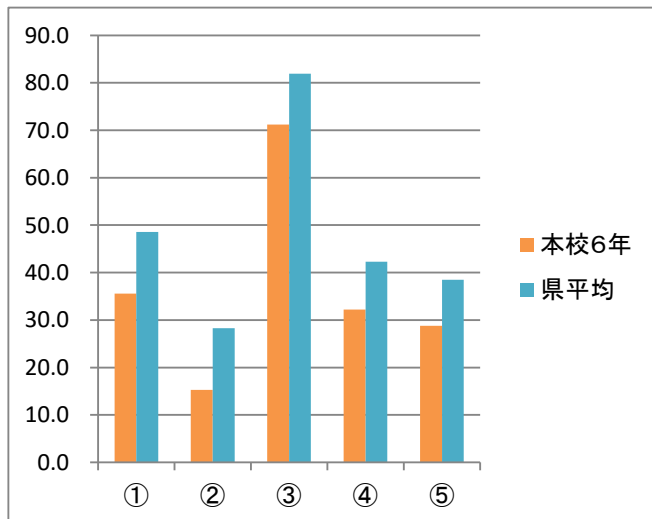


分析と取り組み

○算数を中心にTTの指導を取り入れていることで、きめ細やかな指導を行うことができたり、分からないときにすぐ質問したりしやすいため、問題を解決するまで粘り強く取り組む児童が多く、学習に対して意欲が高いことが分かる。
 ○国語や算数に関しては、授業や学習内容的に「分かる」と感じている児童が多いが、個人差もうかがえる。
 ○児童同士で助け合う意識が高く、授業に話し合い活動「つぼみタイム」を取り入れていることで、話す力がついてきていることを児童も実感していることが分かる。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	(28)日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。→「当てはまる」
②	(57)将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか。→「当てはまる」
③	(1)朝食を毎日食べているか。→「している」
④	(50)国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか。→「当てはまる」
⑤	(55)英語の勉強は好きですか。→「当てはまる」



分析と取り組み

○「朝食を毎日食べている」児童が県平均より大きく下回り、課題を感じる。朝食をとることの大切さを家庭科や学活の授業などで児童に教えたり、通信などで家庭にも伝えたりしていきたい。
 ○外国語の学習に対して苦手意識を感じており、英語を使う仕事につきたいと思ったり、英語を使って外国の人と関わりたいと思ったりしている児童がとても少ない。外国語の授業や、ICT機器などを利用することで、外国語をもっと身近に感じ、英語や外国の文化に触れる機会を増やしていく。